

## 第2回学校評議員・学校関係者評価委員連絡会 会議録

平成30年11月10日  
さいたま市立芝川小学校

### 学校運営、行事等について

- シェフ給食の取組はすばらしかった。
- 学力面では、目標レベルには達している。
  - ・主体的な授業が行われている。
- 体力面では、駅伝の連勝が挙げられる。
  - ・大勢の体力が底上げした結果である。
  - ・駅伝に参加した子の全体が切磋琢磨していた。速い子だけが印象に残りがちではあるが、遅い子が速くなることが大事。
- 登下校の見守り
  - ・見守りの流れを共有しきれていない。
  - ・問題に対して柔軟な対応ができればよい。(教員の情報、地区環境部での情報共有)
- 避難場所運営訓練(10/20)
  - ・第二東中では、中学生50～60人が参加した。
  - ・学校によっては、帰宅困難者を多数受け入れるところもある。
  - ・芝川小の児童のうち、中川地区に住む子たちの多くは海老沼小に避難するのでは。特定はされていないので、非常時はどこでも避難できる態勢を。

### コミュニティスクールについて

- 芝川小学校の現状との違い
  - ・現時点でコミュニティスクールに近い状況になっている。今後はさらに広がりをも。
  - ・チャレンジスクールの運営は、意見も言いやすく、よく受け止めてもらえている。
- 学校評議員の構成
  - ・バランスよく配置されている。  
(学校によっては、PTAのOBだけで占められてしまうところも)
- 地域の組織(民生委員、学童など)を子どもたちのためにうまく使えるように
  - ・保護者主体の活動、夜の見回り等
  - ・様々な人が出入りすることが、子どもたちにとってよいのでは。
  - ・地域の若い人たちの連携もできてきている。
- 区(大宮区・見沼区)に関係なく、活躍できるように。
  - ・地域の子どもの参加、地域の運動会・祭りなど、幅広く交流を深めていきたい。

### 中学生にとっての小学校

- 一般的に中学校は小学校より不登校が多く、孤立する傾向がある。

- ・小学校が開放的であるので、中学校での生活が受け入れられないのでは。
- ・内申で動く子どもの不安定さもある。

(さわやか相談員、つぼみの日、夏の小中一貫研修など、小中連携の取組を紹介)

○小学校が楽しかったと思う中学生は多い。

- ・安心感を求めて、遊びに来られる環境があってもよいのでは
- ・教員人事についても、子どもが戻りやすいように、短期間での異動にしないでほしい。
- ・戻ってこられるチャンスづくりを(運動会に中学生種目、芝友の集い等)。

### 自己有用感は大切

○自己有用感を高めるためには、まずがんばりを認めること

- ・ちょっとした何気ない行動も見てくれる、という安心感が、がんばりのもとになる。
- ・理想を掲げるだけではなく、皆ができることを誉めてよい。

○大人は、子どもがトラブルを起こすことを心配して先回りして行動してしまいがちだが、トラブルを自らの力で解決したり乗り越えたりすることも大切。

○家庭でも3代が揃っている例が減少し、家族間の声掛けが少なくなっている。

- ・手放して誉める祖父母の存在も、自己有用感には大切。
- ・子どもが「自分はダメなのか」と感じてしまう。
- ・これからは、地域の大人が日常的に気持ちを盛り上げる必要がある。

### 子育ての悩みについて

○芝川小には、子どもを思う人がたくさんいる。

○一方で、悩みを抱えて孤立している家庭が増えていると感じる。

- ・悩みの中には、人に話すことで意外とすっきりすることがある。
- ・子どもは深く考えていなくても、親が考え過ぎてしまう例もある。  
子どもの悩みは、近所だからこそ言えないものもある。
- ・相談できずにいる人が多くいることが心配。親の相談場所があれば・・・

○地域の父母が、もっと接点をもてるようにしたい。

- ・親から見ると我が子と、周囲から見るとその子の姿は違う。  
接点がないと、どう思われているか不安になり、気持ちが塞いでしまう。  
負のスパイラルに陥る危険性がある。

○自分の親だけでなく、他人の父、祖父母など、様々な価値観がかかわることが重要。  
多様な価値観に触れることで、子どもが客観的な判断力を養うことができる。

※花マル学習塾 塾長の講話より

小3までは家庭、小4からは先生、部活、地域が大切。  
家庭じゃない人に褒められることが大事

(文責：教頭 小松)